

会議録	
名 称 平塚市立小学校及び中学校適正規模等基本方針検討委員会（第 2 回）	
日 時 令和 7 年 4 月 2 5 日（金） 午後 1 時 3 0 分から午後 3 時 5 0 分まで	場 所 平塚市美術館ミュージアムホール
出席者 委員 8 人（山崎委員、湯川委員、吉田委員、秋山委員、伊澤委員、工藤委員、木村委員、二見委員） 事務局 1 1 人（教育総務部長、学校教育部長、社会教育部長、教育総務部教育総務課長、教育施設課長、学校教育部学務課長、教育指導課長、教育指導課学校安全担当課長代理、社会教育部中央公民館長、教育総務部教育総務課企画担当課長代理、企画担当 1 人）	
1 開会	
2 あいさつ 教育総務部長から挨拶があった。	
3 傍聴者の確認 ＜山崎委員長＞ 本日の傍聴希望者の有無について、事務局に確認したところ、本日の傍聴希望者はいない。	
4 議題 (1) 1 回検討委員会における論点整理について ＜事務局＞ 第 1 回検討委員会における論点整理について、説明した。 ＜委員＞ まちづくりと教育の関係性について、より深く議論する必要がある。平塚市や地域の特色をどうするのか、将来的には、交通インフラなどの変化も考慮し、2040 年、2050 年を見据えた議論を進め、夢を持った内容でないと、負担感だけがあるアンケートになってしまう。 ＜委員長＞ 平塚をどのような街にしていきたいのか、その上でどのような教育が必要なのか、という理念を検討することが求められている。予算や老朽化といった視点でのアンケート調査ばかりでは、本来目指すべき教育やまちづくりの議論が後回しになってしまう可能性がある。 ＜委員＞ 基準が曖昧なまま、議論を進めるのではなく、学校の適正規模や適正配置、特色ある教育について議論を深めていくことで、目的を持って議論を進めることが重要である。現状を説明するだけでな	

く、将来的な発展や理想像を示すことで、議論に説得力を持たせることができる。

<事務局>

学校は地域にあって成り立っているため、地域やまちづくりを無視して学校のことだけを考えることはできない。子どもたちにとって必要で大切な教育環境がどのようなものなのか、そこをしっかりと整理し、その理想に近づけるために、段階的に計画を進めていくことが重要であると考えている。

<委員>

全国共通の教育環境ではなく、平塚独自の教育環境を構築することで、平塚に住む魅力を高め、地域活性化に繋げることが重要である。スケジュールありきで議論を進めるのではなく、何が重要なのか、何をすべきなのか、その視点で議論を進めていく必要がある。

<委員>

都市計画や都市整備などを含めて教育をどうしてゆくべきかという議論をするならば、それぞれの要素を取り入れる必要があるが、そこまでをこの委員会ですることなのか。

別の視点で地域学校協同活動は、学校を中心とした活動だが、統廃合によって学校が一つになることは、短期的な視点ではうまくいくのか。施策を必要とするのではないか。

<委員長>

学校の統廃合に伴う経過措置や施策について検討する必要がある。学校の名称変更や再編に関しても、地域住民の意見を慎重に反映させることが重要である。地域への愛着や学校づくりの思い、愛情といったキーワードを基本方針に盛り込むことで、より良い教育環境を構築できるのではないかと。

(2) 基本方針の策定に向けたスケジュール

<事務局>

令和7年度末に基本方針を策定するまでのスケジュールが説明された。

<委員>

学校適正規模の検討は、建物老朽化や地域関係、学区編成など、非常に大きな問題である。アンケートは、市民からの意見を反映させるための重要な手段であるが、準備まで1か月という期間は短い。

<委員長>

アンケートやパブリックコメントの結果を反映した、読みごたえのある基本方針を策定するためには、より多くの時間を必要とする。基本方針がしっかりと策定されないと、今後の計画実施において変更が生じ、混乱が生じる可能性がある。

<事務局>

会議で議論された内容は、様々な形で、基本方針に反映させる予定である。事務局としては、今年度内に基本方針を作成し、次の計画・準備を進めていきたい。

<委員>

多くの自治体で同様の議論が行われており、総合的な視点で計画が進められていると考えられる。本検討委員会の役割は、平塚市の特色を計画に反映させることである。

<委員長>

平塚らしさが方針で見えることが重要である。文科省や他の自治体の基本方針を参考にしながら、平塚らしさを前面に出した基本方針を策定する必要がある。

<委員>

未来は予測できないが、今からできることを進めることが求められている。少なくとも 15 年先の人口動態は見えている。本検討委員会で決定すべきは、具体的な学校統廃合ではなく、大骨子を作ることである。

<委員>

未来は予測できないため、現状を踏まえて計画を立てる必要がある。アンケートでは、基準が明確でないため、回答者が戸惑う可能性がある。アンケートを通して、平塚市の教育のあり方について、みんなで考える機会とするべきである。アンケートは、単なる意見収集ではなく、将来へ向けた決意を込めたものにする必要がある。

<委員>

地域の現状を踏まえると、学校統廃合による地域への影響について懸念している。今後も、地域の実情を考慮した基本方針の策定が不可欠である。

<委員>

アンケートの実施前に、議論を深め、納得のいくアンケートにしてもらいたい。

(3) 平塚市立小学校及び中学校適正規模等基本方針（たたき台）

<事務局>

第 1 回検討委員会の資料を基に策定した基本方針のたたき台が説明された。

<委員>

基本理念をもっと書き込むことはできないか。概要の最後の段落に「これらの課題を解消し」という記述があるが、解消できるのか、「解消に向け」「解消を目指す」といった表現に変更した方がよいのではないか。

<委員長>

平塚らしさを明確にすることで、学校施設の整備や周辺環境の整備において、地域特性を考慮した取組が可能になる。

<事務局>

教育大綱の理念を踏まえて平塚市の教育振興基本計画を策定している。また、基本方針は、教育大綱で定められた理念に基づいている。

<委員>

既に決定事項がある中で、新たな要素を盛り込むのは、委員会の趣旨を逸脱する可能性がある。平塚らしさという概念は、理念的な話として議論されているが、具体的な定義が曖昧である。

<委員>

適正規模は、既存の教育理念を達成するための手段であり、新たな理念を生み出すものではない。

<委員>

学校現場では、児童数の減少による課題が深刻である。適正規模の検討は、子どもたちの教育という視点を重視すべきである。子どもたちは、地域を生かした学習を進めることができるため、適正規模と地域特性を結びつけた検討が重要である。

<委員長>

適正という言葉は、多様な視点があるため難しい。平塚市独自の適正規模があるだろう。建築の立場では、体のサイズに合わせた服を着る必要がある

<委員>

小規模化による課題は、基本方針の6ページあたりに記載されている。9ページの通学距離は、国の基準を参考にすべきである。他の市町村の状況を比較することで、平塚市の状況を客観的に評価することができる。

<委員長>

参考になる比較資料を基本方針に添付した方がいいのではないかな。文科省や県、自治体レベルで通学圏の統一的な指標が調査されているため、参考資料として提示するとよい。通学時間については、バス利用を含めた基準を明確にする必要がある。

<委員>

小学校校長会では、熱中症対策として、通学距離が最も長い児童の通学時間を調査した結果、1時間近くかかる児童が複数いることがわかった。

<委員>

学校数や築年数について、比較資料があるとよい。

<委員長>

小規模化のデメリットが目立つが、メリットはどうか。小規模化による課題として、多様な学習形態の確保が挙げられる。多様な学習形態の確保には、学習活動の展開のためのスペースが必要となる。教職員の専門性や費用の問題も、小規模化による課題として挙げられる。

<委員>

大規模化のデメリット・メリットも記載した方がよい。

<委員>

アンケートを機能させることができるのであれば、学校の状況が見える。学校のことを分かっているのは先生と児童・生徒である。小規模化がだめだと決めつけない方がよい。現場の声を拾うのが一番良いからこそ、アンケートを精査したらどうか。

<委員>

経済的合理性だけでは、持続可能な教育は実現できない。適正規模の議論は、経済的合理性だけでなく、教育の質や地域活性化の視点も考慮する必要がある。小規模校のメリットも考慮する必要がある。

<委員>

7ページの「適正な規模」の定義について明確にし、小規模化による課題として、単級学級や少人数による探求学習の困難さを具体的に示す必要がある。

<委員>

基本方針では、小規模化の課題ばかりが強調されている。大規模化の課題や小規模化のメリットについても記述した方がよいのではないかな。参考資料1に、小規模化、大規模化、複式学級に関する問題点とメリットをまとめて記述する必要がある。

<委員長>

ある地方都市の小規模校では、地域住民が子どもたちの教育に深く関わっており、学力に遜色がある

ない。地域の教育力は、学校教育だけでは育まれない。基本方針には、文科省が示す新しい教育のあり方や施設整備に関するキーワードが盛り込まれており、これらのキーワードを平塚市の地域特性に合わせた形で、基本方針に落とし込む必要がある。

<委員>

平塚市の教育の特色を明確にすることで、地域住民の共感を呼ぶことができる。適正規模や適正配置は、平塚市の教育の特色に基づいて検討することが重要である。

<委員>

P11「基本的な考え方」が、検討委員会の考え方を示しやすい。

<委員長>

今後、具体的な実施計画を作成していく。実施計画では、地域特性を考慮した具体的な施策を盛り込む。今後、アンケート結果や委員からの意見を踏まえて、基本方針を修正していく。

(4) アンケートの実施について

<委員>

アンケートの冒頭をどのように考えているのか。アンケートの対象者を、地域関係者に絞った方がよい。

<委員>

言葉で書く難しさがあり、数字の方が分かりやすい。アンケートの質問は、子どもにも理解しやすい表現が望ましい。アンケートは、学校をなくすためのものではなく、子どもたちの未来のために、より良い学校づくりを目指したものであると伝える必要がある。アンケートの質問項目を精査し、単一回答と複数回答を明確にするとともに、アンケートの質問は、子どもと教職員の両方に聞きやすい表現にすることが重要である。

<委員長>

問題点だけでなく、良い点も聞き出すことが肝要である。理想的な学校環境や規模については、自由記述で意見を聞くことができる。アンケートを通して、新しい学校づくりのアイデアや課題を市民に考えてもらうことが重要で、新しい教育のあり方や未来に向けた学校づくりに関するキーワードを盛り込むことが求められている。文部科学省の調査研究協力者会議やホームページで公開されている情報などを参考に、質問項目を作成したらどうか。

<委員>

アンケートでは、学校の良い点と問題点を同時に質問することで、よりバランスの取れた意見を収集できる。アンケートの質問項目に、「地域の特色」や「地域らしさ」に関する項目を追加する必要がある。

<委員>

アンケートの質問項目は、行政主導ではなく、市民の意見を重視した内容にすることが不可欠である。子どもの心の健康や地域のつながりなど、数値化できない要素についても、アンケートで質問し、単に現状を把握するだけでなく、未来の学校づくりについて、市民と行政が共に考える機会となるように設計することが求められている。

<委員>

アンケートの質問項目は、必要最低限に絞る必要がある。小規模校だけでなく、大規模校があるこ

とを踏まえている旨を記載するべきである。

<委員>

アンケートの対象を、社会教育関係団体や自治会にも広げることが望ましい。これらの団体へのヒアリングは、アンケートとは別に実施したらどうか。

<委員長>

地域に関する設問が多いことは良いと考える。アンケートの項目に、学校環境に関する項目を追加した方がよい。学校環境は、子どもにとっての居場所となるような、多様な空間であるとともに、快適性や楽しいという概念があるべきである。学校における居場所が机以外にもあるのが理想で、感動するような施設整備が重要である。

<委員>

教職員は、現在勤務している学校について答えるのか、総論的に答えるのか。両方を聞けると次の展開につなげられそうである。アンケートの項目は、教職員が特定されないように配慮した方がよい。教職員に対するアンケートは、学校全体を対象とするのではなく、教育現場における専門家としての意見を聞くことが必要である。

<委員>

アンケート項目は、子どもたちの心の健康や地域のつながりなど、多様な要素を考慮した方がよい。また、子どもの意見だけでなく、地域住民や教職員、卒業生やその保護者、そして街の発展の視点として地域の産業界・経済界の意見も幅広く収集する必要がある。

<委員長>

アンケート項目は、市民にとって分かりやすく、回答しやすいものに必要がある。学校教育の現状や課題を把握するだけでなく、今後の学校づくりについて、市民と行政が共に考えるきっかけとなるようなものにするとよい。

<委員>

アンケート項目を必要最低限に絞った方がよい。

<委員長>

6番、7番、8番の質問をアンケートの後半に移動し、13番の質問を別枠で扱ってはどうか。また、アンケートの質問項目は市民が理解しやすいように、より具体的な表現にする必要があり、市民が回答しやすいように、選択肢を増やした方がよい。

<委員>

22番や23番の項目は行政の問題であり、今後の対応は、次の段階で考える必要がある。

<委員>

17番の選択肢について、市民に特別活動、キャリア教育、校務支援は難しい言葉である。9番の現在の学級数から始め、今後のことを後ろにした方がよい。

<委員長>

7番、8番、13番は後ろの方がよい。

<委員長>

聞くこと自体はよいと思うが、理由を書いてもらう必要がある。

<委員>

ストレートに聞いている感じがする。様々な事項を聞きながら、核心のところはあえて聞かずに、

周りの関連することから類推する方がよい。

<委員>

例えば、6番、7番、8番、16番といった現状の質問を前にする。今後の適正規模に関する質問は、答えられたら答えてくださいっていった言い方にするとよい。

<委員長>

皆さんからいろいろなご意見が出たので、事務局で意見を踏まえて、もう一度検討していただく。

<委員>

アンケートの結果を踏まえた対応も考えておいた方がよい。今日の意見を踏まえて、少し言葉も柔らかくする。いろいろな面も含めて、もう一度やっていただくとありがたい。

<委員長>

アンケートを実施する場合は、その結果をある程度想定する必要がある。蓋を開けるまでよくわからないというアンケートは、注意した方がよい。仮説を立ててアンケートで検証することが重要である。

<事務局>

質問項目に対して、得られる結果の想定はしている。その結果を、基本方針のどの部分に入るかといったイメージは持っている。

<委員>

最低限のチェックは必要と考える。

<事務局>

非常に細かく見ていただき、ありがとうございます。いただいたご意見をアンケートに反映させ、皆様にもう一度確認をしていただき、概ね良好ということでお返事をいただければ、予定通りアンケートを進めさせていただきたいと考えています。

<委員>

アンケートの修正案を委員に送付するようお願いします。

5 その他

・次回の第3回検討委員会の予定 7月11日（金）13時30分開催 ※場所調整中

6 閉会